



「みえ治験医療ネットワーク」では、
県民の皆さんに広く治験について
知っていただくことを目的に、
三重大学医学部附属病院や
NPO法人 みえ治験医療ネットと協力して、
県内の各病院で、治験啓発キャンペーンを
実施しています。

独立行政法人国立病院機構 ^{いはら}三重病院の庵原俊昭院長に 治験の取り組みについてお話を伺いました!

三重病院の庵原俊昭院長は、平成21年春以降、
新型インフルエンザが猛威を振るった際に、
インフルエンザワクチンの治験調整医師として治験を主導し、
急務となっていた国産ワクチンの開発を
実現させたことが評価され、昨年12月に
第23回人事院総裁賞（個人部門）を受賞されました。
今回、庵原院長に、日頃の治験に対する取り組みなどについて、
お話を伺いました。



独立行政法人国立病院機構三重病院
庵原俊昭 院長

—— 庵原先生や三重病院の治験の取り組みについて教えてください

庵原先生 国内では、小児科で治験を実施できる病院が少ないため、小児ワクチンの治験には、当病院はほとんど関わっています。三重県のお子さんやご家族の協力なしに開発できなかったといえるくらい県内の症例数が多いワクチンもあります。

—— 院長先生をはじめ、先生方は非常に忙しいのに、 治験もやらなければならないのでしょうか

庵原先生 治験は医師として、当然進めていかなければならない重要な仕事です。しかし、実際には、日本では治験を引受けることのできる医師や治験関係者が少ないのが現状です。治験が普及していくには、まず、医師が治験に慣れることが大事だと思います。それには、教育が大事で、後期研修医のときに治験教育を推進する必要があると思います。医師にはもっと治験や薬について関心をもってもらいたいと思います。

—— 治験を進めるに当たって大切なことは何でしょうか

庵原先生 小児科では、医師が、患者であるお子さんやご家族と日頃から良好なコミュニケーションを進め、医師と患者さんの信頼関係を築いていくことが大事です。治験の普及には多くの国民の皆さんの理解と協力が必要ですが、その理解と協力は医師との信頼関係によって生まれると思います。

—— メディカルバレー事業に期待することは何でしょうか

庵原先生 治験は国民の協力なしにはできません。メディカルバレーでは、みえ治験医療ネットと連携した普及啓発活動を行っているので、今後も県民の皆さんが治験に関心をもつような啓発活動を続け、三重県発の薬の開発の実現に貢献していくことを期待しています。